

★ 元 村 西 自 治 会 ★



元村西自治会は、平成元年に従来より所属していた元村北自治会より分離独立し、現在に至っております。発足当時は 373 世帯でしたが、平成 23 年では、595 世帯と大幅に増えております。

特に紹介したい活動内容としては、7 月末の地区内の湯舟沢砂防ダム公園で開催する「川魚つかみ取り大会」です。自治会役員があらかじめ、ダム下流の川を整備後、堰止め、いわなを放流し、幼児、小学生に手づかみで川魚を捕らせ、その場で炭火で焼いて食べるという自然と一体となった行事を行っています。

夏には、けやきの平公園に於いて「夏祭り」を開催、さんさ踊りの他、炭坑節等各地の盆踊りも実施し、模擬店出店と合わせ、好評を得ております。

秋には、滝小グラウンドに於いて「運動会」を開催。地区内の 4 子ども会を 2 チームに分け、親子で一緒にやれる種目を中心に秋の一日を好評の内に過ごしております。

新年早々には、村の指定天然記念物の「五龍のフジ」が在る角掛神社境内で、「どんと祭」を開催しております。地区内の子ども達が各家庭を廻り、正月の飾り物を回収し、住民の協力費をもとに、菓子、甘酒等いただきながらどんと焼きを実施し、その後公民館に於いて、老人会の皆さんの協力を得て、昔あそび大会等も行っております。

通常自治会活動の中で特筆されるのは、通学路に於ける、防犯、交通安全を目的とした立合いや夜間パトロール(夏休みは子ども達も参加)、カーブミラー清掃等、年間を通した活動の他、地区内一斉清掃、砂防ダム公園の一斉草刈り、ボーリング大会、子育て支援活動、希望者に依る研修旅行を実施し、バスにて各地を見学研修も好評を得ております。

近年は自治会役員と中学生を中心とした「スノーバスターズ隊」を発足し、地区内の老人宅の除雪を実施し、会員より喜ばれております。

◎座談会を行いました



○23.3.11 震災発生時の自治会の動きについて

堀井防犯部長 避難所の開設について会長と相談し、停電のみの状況だったので、一晩様子を見ようということになりました。次の日も停電が続いていたため、いよいよ避難所を開設することになりました。幸いにも、集会所の向かいに住む山火副会長が発電機を持っていたため、それを提供してもらい避難所の電源としました。

藤原子供会育成会委員長 地震発生時は、勤務先の柳沢学童保育クラブにいました。しばらくすると、次々と子どもの迎えに親たちがやってきて、連れて帰りました。

伊藤婦人部長 当日は会社において仕事をしていました。子どもたちは学校に行っていました。子どもが帰ってきてその姿を見たときは、思わず涙が出ました。

下川副会長 私も会社において仕事をしていました。地震が収まってから家の様子が心配だったので、仕事を一旦切り上げ家に向かいましたが、すでに大渋滞でした。なんとか実家と自宅に寄り、家族の安否を確認できたので、今度は集会所に向いました。

山火副会長 子どもたちの見守り活動をして通学路に立っていました。地震が収まった後、危険だと思い、みんな学校へいったん帰しました。自前の発電機を出してきて、避難所の開設に備えました。

狩野交通部長 仕事で釜石にいました。ちょうど車の中で休憩しているところでしたが、強い揺れを感じ、「これはだめだ。すぐに帰ろう!」ということになり、とにかく山側の方だということで、必死に逃げ車をとばし、なんとかその日のうちに

滝沢に帰ってきました。

和山体育部長 当日職場の病院にいました。患者さんたちの安全確認、避難誘導を行いました。高齢者の方々は恐怖で体が動かなくなっていました。

外館事務局長 自治会の避難所に来たのは地震の2日後です。学校に勤めていて、寮の担当をしていますので、子ども達の面倒があったので落ち着いてから帰宅したときには、地域も落ち着いていました。

福島事務局次長 今考えると一人で家にいる方は本当に心細かったと思います。そんな時、発電機により電気がつく集会所があるということは心強かったと思います。ストーブもあったし、集会場の状況をみんなにお知らせできれば、もっと避難する方も多かったと思います。こんな時に、地域に一斉にお知らせする手段があれば、本当に役に立つと思いました。

堀井防犯部長 普段からの近所付き合いがやはり大切だと感じました。今回のような震災の時、普段のお付き合いがあるからこそ、炊き出しだったり、見守りだったり、がうまくいくと思います。助け合いができるのが自治会の良いところだと思います。

瀬川会長 今回の座談会の趣旨は、最近のことを話題にしようということで、昨年の震災を振り返ってみました。この地域は、



平成12年に洪水もあつ、いろいろ大変な部分もありましたが、そこから立ち上がって今日までできました。地域の大きな問題として、道路が無いという問題があります。災害が起きてからでは遅いということにならないよう、道路の問題を何とか解決しないとイケないと思っています。私達住民がいつでも安心して住めるために、行政は、やはり防災防犯、村民の命に関わることを積極的に取り組んでいってほしいと思います。行政は地域の課題を解決しようと努めていただきたいし、そうことがあって協働により地域づくりが更に進むと思っています。